

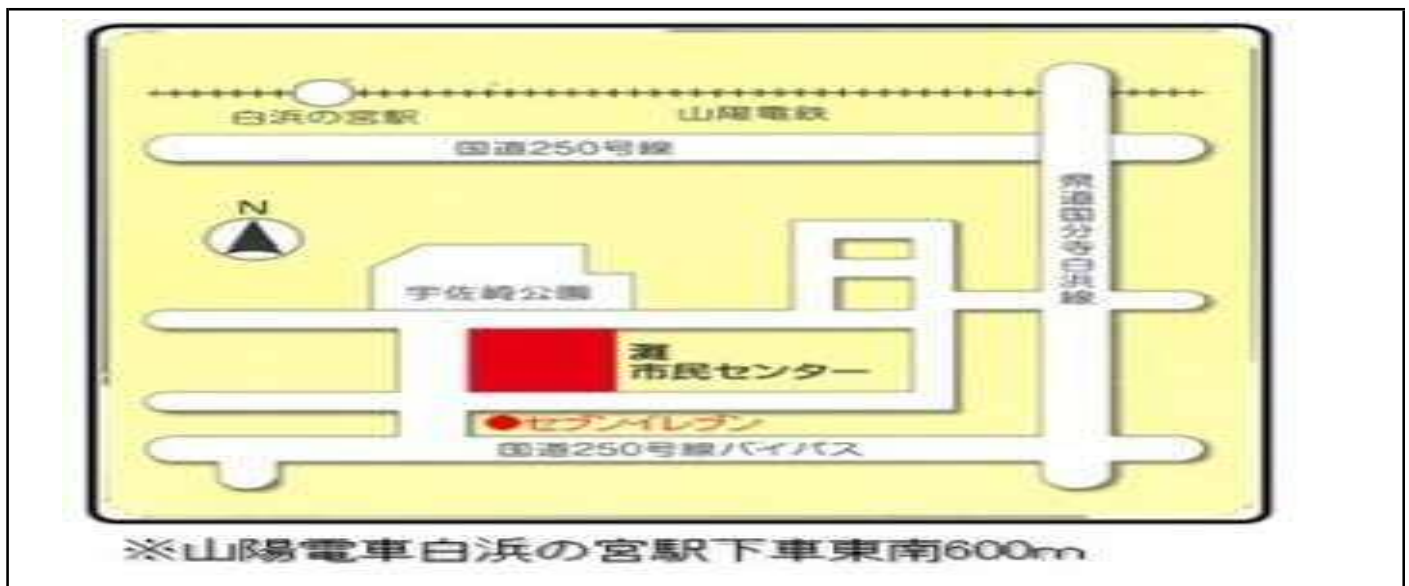
## 地域包括支援センター適正運営評価 基本調査票

### 【地域包括支援センター概要】

|           |   |
|-----------|---|
| センター名称    | 姫路市灘地域包括支援センター                                  |
| 法人名       | 株式会社セイフティサービス                                   |
| 所在地       | 〒672-8021<br>姫路市白浜町宇佐崎中2丁目520番地 灘保健福祉サービスセンター2階 |
| 電話        | 079-247-3355                                    |
| FAX       | 079-247-3388                                    |
| ホームページURL |   |

### 【センターの案内】

|             |                  |
|-------------|------------------|
| センターまでの交通手段 | 山陽電鉄白浜の宮駅より徒歩15分 |
|-------------|------------------|



## 【センターが所在する地域の特徴・特性】

担当地域は、姫路市の南東部に位置し、海、山、川に囲まれた風光明媚な地域で、日本を代表する「灘のけんか祭り」が有名で地域住民のつながりの深い地域と言えます。当センターは白浜・糸引・八木の3校区を担当しています。白浜校区には公共機関が集中しており3校区の中でも人口が最も多い地域です(人口:14654人、高齢化率:26.5%)糸引校区は、新興住宅が多く見られるようになりました。姫路市の中でも年少人口割合が多い地域です。(人口:12112人、高齢化率:16.6%)八木校区は、総人口に対して老年人口の割合が高い地域です。(人口:2369人、高齢化率:38.4%)それぞれの地域の特徴は異なりますが、自治会、民生委員児童委員、老人会、婦人部の組織率が高く、地域の団結力のある地域です。(人口等の情報=令和4年3月31日現在)

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ①地域包括支援センター内のチームアプローチを大切にし、朝礼やミーティング等あらゆる機会を通し、総合相談や地域活動の共有や今後の対応について話し合っている。
- ②民生委員の総会には必ず参加し顔の見える関係づくりを行い、高齢者だけでなく、地域住民、自治会等の関係性を深め、地域包括支援センターへの相談がしやすくなるよう啓発活動を行っている。
- ③地域包括支援センター職員全員が、月1回、テーマを決めて勉強会を実施し、多職の視点を各々が深め、資質向上、チームアップに繋げている。

## 【令和5年度末の担当圏域の目指す姿】

- ①いきいき体操は引き続き、全校区で継続開催できている。
- ②認知症の人・家族が住み慣れた地域でリラックスできる通いの場が増える。
- ③地域包括支援センターが、高齢者の身近な相談窓口であることを、隣保回覧の「ほうかつだより」「介護相談会」開催により地域の方に周知する。
- ④生活支援体制検討会議を白浜校区2回、糸引校区1回、開催継続できる。昨年、八木校区は開催に至っていないため1回開催継続できる。

## 地域包括支援センター適正運営評価 評価意見書(総評)

|        |                |
|--------|----------------|
| センター名称 | 姫路市灘地域包括支援センター |
| 評価調査者名 | 力久恵弥・河原正明・西本直樹 |

### 【第三者評価で確認した特徴的な取り組み、工夫点】

・「ほうかつだより」をはじめ、総合相談や生活支援体制検討会議などあらゆる機会を通じて、フレイル予防につなげている。また、認知症サロンの運営支援を通じて、早期発見・早期対応に繋がるよう相談窓口の紹介を行っている。

・相談の対応にあたっては、できる限り地域の資源と連携して行っていくことが出来るよう、「地域支えあい会議」が開催できるよう努めている。

・圏域内の地域包括支援センターとの連携としてブロック研修会や民生委員や自治会といった顔の見える関係作りに取り組まれている。また、認知症の理解が深まるよう、企業や店舗など地域の事業所を回り、認知症の理解を深めるためのチラシを配布するとともに、近辺の実状を把握するための聞き取り等を行っている。

### 【第三者評価で確認した次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

・「通いの場」のバリアフリー化や次の担い手づくりに課題を有しており、地域の企業や店舗など高齢者福祉との関与が少ない場所の活用など、新たな多様な地域資源の開拓に期待するとともに、「通いの場」を通じて行った「フレイルチェック」の更なる活用を図ることが期待される。

・65歳以下の方など、介護保険の対象とならない方への総合相談の周知が課題となっており、今後は、障害者相談支援事業所をはじめ、障害福祉分野や生活困窮者支援など、高齢者の生活に関する重層的な相談拠点として協働できる体制の充実が望まれる。

・高齢者の在宅支援医療の充実が図れるように、地域の医療機関との連携を深めていくとともに、地域包括支援センターが行っている多様な取り組みを地域のケアマネジャーに周知していくことで、多様なサービスを活用できる地域の基盤づくりを推進していくことが期待される。

・認知症サロンに認知症の方や家族が参加しやすい環境や配慮を深めていくとともに、姫路市の認知症ケアパスをベースに地域の資源をわかりやすく説明したケアパスを構築することで、早期発見・早期対応につながる仕組みづくりが期待される。

### 【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

適正運営評価にて、質問や助言を頂き、改めて振り返り、日々の活動で期待して頂いている事を深めたり、改善したりする内容を以下に検討しました。

・いきいき百歳体操などの地域活動を辞めてしまった方や参加されていない方にも再度声かけを行う。地域の企業(JAやお寺)などサロンやいきいき百歳体操が新しい場所で活動ができるかどうか声かけを行っていく。

・生活困窮者に対しては成年後見制度や日常生活自立支援事業等の関係者と連携、またフードバンクなどを利用し対応を行っている。さらに困窮に陥る前に支援できるよう、お便りなどの発信を通して地域包括支援センターが介護保険だけでなく、制度や情報提供を行う相談窓口である事を、各種団体や地域住民に分かりやすく伝えていく。今後、障害の相談についても早期対応、連携が取れるよう関係性を築き、障害者相談支援事業所に声掛けして勉強会を行い、地域のケアマネジャーにも情報を発信していく。

・地域の医療機関や圏域外の総合病院地域連携室に挨拶に行き、情報を密に取る事が出来るように、顔の見える関係づくり、連携を行う。

・現在ケアマネジャーに対しては地域のフォーマル・インフォーマルサービス(社会資源)の情報提供を行っているが認知症の方や誰にでも分かりやすいように、認知症関係の情報を追加し、地域包括支援センターが高齢者とその家族のあらゆる相談に対応する最も身近な相談拠点で、悩みや不安がある時は、まず地域包括支援センターに相談していただけるように「ほうかつだより」等にて発信していく。

### 【備考・その他】

祭りが盛んな地域であり、地域住民のつながりが強いという強みがあるので、地域の特性を活かした支援体制を整えればより一層の支援体制の充実が期待できる。

|                                  |   |  |   |
|----------------------------------|---|--|---|
| 評価項目・着眼点                         |   | 基本目標1:生きがいを感じながら暮らすための支援の充実  |   |
|                                  |   | (基本的な考え方)<br>人生100年時代、介護予防に努め、いつまでも自分らしく、生き生きと暮らすことが大切です。そのために、身近な地域活動への参加を増やし、継続することが必要となります。その生活スタイルを周知するとともに、地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくりに取り組みます。   |   |
|                                  |   | ①  | 介護予防に関する認識の变革   |
|                                  |   |  | 85歳以上の高齢者に対し、「通いの場」である「いきいき百歳体操」と「認知症サロン」への参加促進を行い、フレイル予防につなげる。<br>市民向け講座などでフレイル予防に関する啓発・周知を進めフレイルの危険因子を持つ人等を早期に発見する取り組みを進める。 |
| ②                                | 高齢者が通える場があるまちづくり  |  |   |
|                                  | 介護予防への意識が高くない高齢者を通いの場に誘導するとともに、フレイル等で通いの場への参加が中断することを予防するための取り組みを充実させる。 |  |   |
| センター<br> <br>記<br>入<br>欄         | 取り組みの状況   | ①いきいき百歳体操グループを訪問し、継続支援と前年度21グループ今年度は12グループのフレイルチェックを実施。その結果をふまえて個別・集団指導でフレイル予防を促し危険因子のある方の早期発見に努め、相談窓口を紹介している。生活支援体制検討会議でフレイル予防を啓発、介護保険申請時や相談の際にもいきいき百歳体操への参加を働きかけている。<br>②「ほうかつだより」にいきいき百歳体操の実施場所を掲載し、今年度より隣保回覧する事で多くの地域の方へ周知する事が出来て新規の参加者が増えてきている。 |   |
|                                  | 現在課題と<br>感じていること  | ①通いの場に階段があったり近隣でない事により参加者・新規の参加者共に高齢や身体状況で参加が困難または支障をきたしている。<br>②新型コロナウイルス感染症の影響で通いの場に参加する事を懸念され参加者や回数が減少している。   |   |
|                                  | 目標達成のための今後の取り組み   | ①世話人のお困り事の傾聴と助言させて頂き役割の継続が出来るよう支援しながら次の担い手を見つけて世話人の負担の軽減に努めていく。長期欠席者への働きかけが出来るよう世話人との連携を図っていく。<br>②体操の継続が出来るよう又家に籠らず通いの場に参加出来るよう通いやすい会場を地域の方との連携を図り立ち上げ出来るようアプローチしていきように努める。   |   |
| 評価<br>調<br>査<br>者<br>記<br>入<br>欄 | 評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点   | 各校区に隔たりなく「いきいき百歳体操」をはじめ「通いの場」を開設され、隣保回覧される「ほうかつだより」をはじめ、総合相談や生活支援体制検討会議などあらゆる機会を通じて参加を促進していくことで、フレイル予防につなげている。また、新たな参加者をつないだ時には、できるだけ職員が立ち会うように配慮され、認知症をはじめ配慮が必要な高齢者でも通い続けられるよう、世話人と話し合いながら通いの場への定着を図っている。   |   |
|                                  | 次のステップに向けた気づきや期待したい点  | 「通いの場」のバリアフリー化や次の担い手づくりに課題を有しており、地域の企業や店舗など高齢者福祉との関与が少ない場所の活用など、新たな多様な地域資源の開拓に期待するとともに、「通いの場」を通じて行った「フレイルチェック」の更なる活用を図っていくことを期待したい。  |   |

|          |                               |   |  |
|----------|-------------------------------|---|--|
| 評価項目・着眼点 |                               | 基本目標2: 困りごとを地域全体で受け止める体制の構築   |  |
|          |                               | (基本的な考え方)<br>日常生活圏域単位に市民に身近な場所への地域包括支援センターの設置を継続し、地域の高齢者、その介護者の生活スタイルに対応できる相談体制の強化を行います。困りごとを抱える高齢者やその家族への支援を行う中で、地域共生社会の実現に向けて、他との連携を進めていきます。  |  |
|          |                               | ①   | 地域包括支援センターの運営                                      |
|          |                               |   | 地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割を持っていることを地域で認識されるようになる。 |
| ②        | 地域包括支援センターの機能強化               |   |  |
|          | 地域包括支援センターの専門性を活かした相談機能を強化する。 |   |  |
| ③        | 世代や分野を超えた地域のつながりの構築           |   |  |
|          | 地域共生社会の実現に向け他分野との連携を強化する。     |   |  |
| センター記入欄  | 取り組みの状況                       | ①「ほうかつだより」に地域活動などを掲載し、介護サービスの相談先以外の役割を行っている事を周知している。地域活動の場に出向き、地域包括支援センターが消費者被害対策や認知症・高齢者虐待の相談窓口である事の啓発活動を行っている。<br>②退院時に地域支えあい会議を開催(本人、ケアマネジャー、ケースワーカー、保健所職員、医師、理学療法士)専門的治療が必要な為、連携を行った。民生委員、自治会等定例会で地域での困りごと、困った高齢者を発見した場合に地域包括支援センターに繋いで頂くよう周知している。<br>③以前は一部の方だけに配布していた「おたより」を今年度より地域住民の多くの人に見ていただけるよう、隣保回覧することで周知しました。 |  |
|          | 現在課題と感じていること                  | ①地域活動の場に参加していない方への周知が不十分である。<br>②ちょっとした困りごとでも、地域支えあい会議等の声かけを実践する。<br>③保健センターとは、連携して支援しているケースもあるが、65歳以下の相談も増えつつある。障害者相談支援事業所との連携はまだ少ない。  |  |
|          | 目標達成のための今後の取り組み               | ①「ほうかつだより」を定期的に発行することで、地域活動の場に参加されていない年代の方にも、地域包括支援センターの様々な役割を知っていただく。<br>②ケアマネジャーや民生委員・地域の方からの相談には、すぐに対応し内容に応じて支え合い会議の開催や関係機関へ紹介する。(相談事を聞いてもらえたと思われる対応をする)③地域の方が、どこに相談したらいいのか?わからない時に来所していただけるように、相談に来られた方に丁寧な対応を心がけ地域の方に周知していく。   |  |
| 評価調査者記入欄 | 評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点           | 民生委員児童委員やケアマネジャーとの連携を通じて、介護サービスにとどまらない幅広い相談を職種の垣根を超えて、全職員で対応している。また、相談には、すぐに対応することを原則にしており、緊急事態にも対応できるよう、体制の充実を図っている。相談の対応にあたっては、できる限り地域の資源と連携して行っていくことが出来るよう、「地域支えあい会議」が開催できるよう努めていることがうかがえた。<br>民生委員児童委員や自治会と常に顔の見える関係づくりや、いきいき百歳体操や認知症サロンなどのグループへ出向いていくことにより、身近な地域での困りごとに耳を傾け必要に応じて対応されている。                              |  |
|          | 次のステップに向けた気づきや期待したい点          | 65歳以下の方など、介護保険の対象とならない方への総合相談の周知が課題となっており、今後は、障害者相談支援事業所をはじめ、障害福祉分野や生活困窮者支援など、高齢者の生活に関する重層的な相談拠点として協働できる体制の充実に期待したい。  |  |

|          |   |   |
|----------|---|---|
| 評価項目・着眼点 | 基本目標3: 地域で暮らし続けるための支援の充実                            |   |
|          | 虚弱・軽度要介護者の重度化防止、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用を図ります。 |   |
|          | 多様なサービスの活用  | ① 地域の通いの場や多様な主体で展開される介護予防生活支援サービス、在宅医療・介護の連携体制及び認知症高齢者等への支援に係るサービス(地域支援事業)を効果的に活用して、虚弱・軽度要介護高齢者の重度化予防・自立支援を図る。そのために、地域包括支援センターが担う取り組みや事業としては、地域ケア会議推進事業、生活支援体制整備事業、通いの場の充実、認知症の人への支援などがあげられる。   |
| センター記入欄  | 取り組みの状況   | ①地域支えあい会議を4回開催。<br>②生活支援体制検討会議開催。白浜校区2回。糸引校区1回。八木校区は自治会長に説明し意義は伝わったもののまだ開催に至っていない。<br>③定期的に通いの場を訪問し課題の共有や解決に向けた助言。フレイル予防の啓発を行っている。<br>④認知症への支援。認知症の人・家族が通える場をつくっている。<br>⑤ブロック研修会にて医療・介護連携センターと協働で「かかりつけ医とケアマネジャーの連携・連絡票の利用について」周知、啓発した。                   |
|          | 現在課題と感じていること  | ①支えあいシート作成にこだわって地域課題が出てこない。<br>②自治会長の交代があり再度説明が必要である。<br>③通いの場の立ち上げ支援をして頂くリーダーが不足している。<br>④認知症の人・家族が身近で通える場に参加できる支援が必要。   |
|          | 目標達成のための今後の取り組み                                     | ①ちょっとした困りごとでも地域支えあい会議開催することができる事を地域住民、ブロック研修会、民生委員の定例会で周知する。<br>②交代した自治会長に生活支援体制検討会議の説明、意義を定例会に参加させて頂き啓発を行う。<br>③多くの人々が地域の場へ参加できるよう多様な場所で紹介を行いフレイル予防について啓発する。<br>④「ほうかつだより」や地域のケアマネジャーが参加する研修会で立ち上げ支援や周知する。   |
| 評価調査者記入欄 | 評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点                                 | 多様なサービスが活用できるよう、ちょっとした困りごとでも地域支えあい会議が開催できるように努めていることがうかがえた。また、「通いの場」を通じて、認知症の方や家族が参加できるよう、「日常生活自立支援事業」の説明を行ったり、認知症サポーターの養成を図っている。地域の役員が交代した時には、地域包括支援センターの役割を説明し、生活支援体制検討会議が開催できるよう、連携を深めている。圏域内の地域包括支援センターとの連携としてブロック研修会や民生委員や自治会といった顔の見える関係作りに取り組まれている。 |
|          | 次のステップに向けた気づきや期待したい点                                | 高齢者の在宅支援医療の充実が図れるように、地域の医療機関との連携を深めていくとともに、地域包括支援センターが行っている多様な取り組みを地域のケアマネジャーに周知していくことで、多様なサービスを活用できる地域の基盤づくりを推進していくことを期待したい。   |

|                 |  |  |
|-----------------|--|--|
| 評価項目・着眼点        | <b>基本目標4：認知症とともに暮らす地域の実現</b>   |  |
|                 | 認知症は誰もがなりうるものであり、認知症になっても、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指します。また、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防(認知症になるのを遅らせる。認知症になっても進行を緩やかにする)に関する取り組みを推進します。   |  |
|                 | ①  | 認知症にやさしい地域づくり<br>認知症サポーターが地域で活躍できる機会の充実を図る。認知症の本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場を設置する。   |
|                 | ②  | 認知症になるのを遅らせるための取り組み<br>高齢者が身近に通える場等の拡充。通いの場を活用し、認知機能低下がある人や、認知症の人に対して、早期発見・早期対応が行えるよう、医療機関とも連携した支援体制の整備。   |
| センター記入欄         | ③  | 認知症になっても地域で暮らし続けるための取り組み<br>認知症の種類や進行段階、生活環境に応じた適時・適切な医療・介護に提供が出来るようになる。   |
|                 | 取り組みの状況  | ①地域の事業所を回り、認知症や認知症サポーター養成講座についての理解を深めるためのチラシを配布し、近辺の聞き取り等を行っている。<br>②認知症サロンの運営支援を継続し、認知症サロンやいきいき百歳体操などの活動の場にてフレイルチェックを実施している。早期発見・早期対応に繋がるよう相談窓口の紹介を行っている。<br>③必要に応じて姫路市認知症ケアパスを紹介し、適時・適切な医療・介護に繋がるよう本人、家族の情報からアセスメントを行い、介護保険サービスや各種関係機関等への連携を図っている。 |
|                 | 現在課題と感じていること   | ①認知症になると、当番の予定が分からなくなる等、他の参加者とトラブルが起り、地域の通いの場に通うことが出来なくなってしまうこともあるのが現状である。②高齢化に伴い、通いの場の後継者不足問題が深刻となっている。警察からの認知症に係る対象者情報提供も増加しているが、医療機関へ繋ぐことが困難なケースも多い。初期の段階での気づきの支援体制の整備が必要である。③認知症が進行した状態になっての対応が多く、理解が得られなかったり、対応に時間がかかってしまう。                     |
| 目標達成のための今後の取り組み | ①いきいき百歳体操の場で認知症サポーター養成講座の開催を行い、参加者の認知症の理解を高め、認知症になっても通いの場に通うことができるよう支援している。②認知症サロンでは、フレイルチェック・DASCを参加者全員に行い、早期発見・早期対応に繋げる。③認知症や認知症サロン、認知症サポーター養成講座についての記事を掲載したほうかつたよりを地域住民に回覧を行い、認知症についての啓発を継続し、早期発見・早期対応に繋げる。 |  |
| 評価調査者記入欄        | 評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点  | 認知症の理解が深まるよう、企業や店舗など地域の事業所を回り、認知症の理解を深めるためのチラシを配布するとともに、近辺の実状を把握するための聞き取り等を行っている。また、認知症サロンの運営支援を通じて、早期発見・早期対応に繋がるよう相談窓口の紹介を行っている。  |
|                 | 次のステップに向けた気づきや期待したい点   | 認知症サロンに認知症の方や家族が参加しやすい環境や配慮を深めていくとともに、姫路市の認知症ケアパスをベースに地域の資源をわかりやすく説明したケアパスを構築することで、早期発見・早期対応につながる仕組みづくりに期待したい。   |